

Philomusica Orchester Kyoto



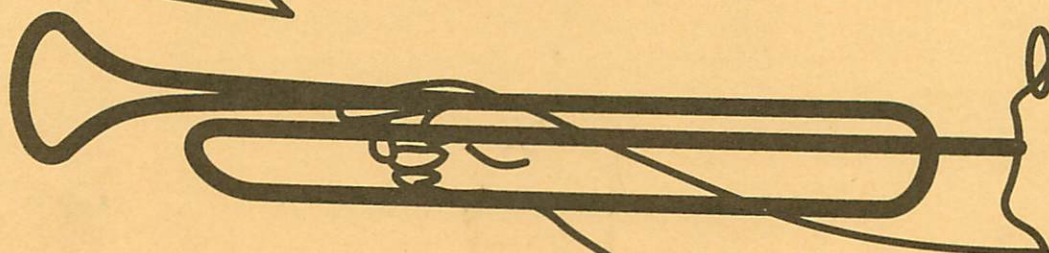
Sir Charles Hubert Parry
Symphonic Variations



Wolfgang Amadeus Mozart
Sinfonie in D "Pariser Sinfonie"



Ralph Vaughan Williams
A Pastoral Symphony



京都フィロムジカ管弦楽団
第14回定期演奏会
2003年12月7日(日)
京都府長岡京記念文化会館

ごあいさつ

本日ここに「京都フィロムジカ管弦楽団」定期演奏会を開催するにあたり、ご多用にも拘わらず、多数の方々のご来場をいただきまして、誠にありがとうございます。

この定期演奏会も、メンバー諸君が仲間と貴重な、しかも楽しい音楽経験を積み重ねて、はや第14回目となりました。今回の演奏会は指揮者に長野力哉氏をお迎えし、先生のご指導のもと、ますます努力と研鑽を積み重ね、本日ここに魅力あふれる曲の数々を披露してくれるものと期待致しております。皆様にはその努力の結実を演奏の中にお聴きいただければ幸甚に存じます。

また第13回で好演されましたソプラノの好本由希子さんが今回もヴォーン・ウィリアムズの「田園交響曲」で、その美声を遺憾なく発揮して下さるのも話題の一つです。

最後になりましたが、「京都フィロムジカ管弦楽団」の為に、物心両面にわたるご支援を賜りました皆様方をはじめ、ご指導下さいました先生方に厚く御礼申し上げますと共に、定期演奏会のますますの発展を祈りまして、ご挨拶とさせていただきます。

京都フィロムジカ管弦楽団 顧問 和田 之宏

音楽は演奏されることにより初めて世に出ます。これは他の種類の芸術作品と少しちがったところで、音楽では作った人とそれを演奏する人の両方の気持ちがそろうて初めてその作品の良さが世間に伝わります。つまり演奏される機会がなければ、その作品は誰にも知られず埋もれたままになってしまうのです。

当団では作曲家の名前すら知られていない隠れた傑作を掘り起こしては聴衆に提供しています。「こんな作曲家がいたのか」と、まず知ってもらいその作品の良さを十分堪能してもらえれば私たちにとってこのうえない幸せです。きょうご来場いただいたみなさまの音楽的経験が少しでも豊かになりますよう祈っています。

京都フィロムジカ管弦楽団 団長 長岡 武志

京都フィロムジカ管弦楽団 第14回定期演奏会
2003年12月7日(日) 京都府長岡京記念文化会館

1:15より ロビーコンサート

サー・チャールズ・ヒューバート・ヘイスティングズ・パリー／交響的変奏曲(日本初演)
Sir Charles Hubert Hastings Parry Symphonic Variations (First performance in Japan)

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト／交響曲第31番ニ長調『パリ』
Wolfgang Amadeus Mozart Sinfonie in D "Pariser Sinfonie" KV297(300a)
I. Allegro assai II. Andante III. Allegro

—休憩—

レイフ・ヴォーン・ウィリアムズ／『田園交響曲』(交響曲第3番)
Ralph Vaughan Williams A Pastoral Symphony (Symphony No. 3)
I. Molto moderato II. Lento moderato III. Moderato pesante IV. Lento-Moderato maestoso

ソプラノ：好本 由希子

指揮：長野 力哉

楽譜協力：トヨタミュージックライブラリー

※携帯電話、ポケットベル、アラーム付き腕時計などの電源は必ずお切りください。
※客席での写真撮影、録音、録画、ご飲食、喫煙はかたくお断り申し上げます。

ロビーコンサート

ミヨー／組曲『ルネ王の暖炉』Op. 205 より 1、Coutege (行列) 6、Chasse a Valabre (ヴァラブルでの狩) 7、Madrigal-Nocturne (マドリガル～ノクターン)

Fl.江藤、Ob.中西、Cl.田中、Fg.塚田、Hrn.坂口

…ミヨーは、デュレ・オネゲル・タイユフェール・プーランク・オーリックと並ぶフランス6人組の一人。この曲は、彼の郷里である南フランスのクス=アン=プロヴァンスを題材にした音楽の一つで、15世紀にこのプロヴァンス地方を治めていたルネ王の日常生活にまつわる風物を描いた作品。標題の「ルネ王の暖炉」とは、冬でも暖かいというルネ王お気に入りの場所の名前です。(江藤)

ガーシュウィン／「私の彼氏」「アイ・ガット・リズム」「サマータイム」「ス・ワンダフル」「アイ・ガット・プレッティ・オ・ナティン」

Trb.竹下、山下、谷口

…ガーシュウィンは1898年ニューヨーク生まれ。6歳の頃から独学でピアノを始めました。その後、劇場のリハーサル・ピアニスト、有名歌手の伴奏役、ミュージカルの作曲者と、とんとん拍子で出世街道を走りました。1919年、「スワニー」という歌が大ヒットし、このレコードは225万枚の売り上げを記録。その後、1937年に亡くなるまでに、ポピュラーからクラシック、オペラ、映画音楽といった幅広いジャンルの曲を作曲し、現在も、多くのアーティストが彼の歌を歌い、曲を演奏しています。クラシックやジャズに詳しくない方でも、きっとどこかで耳にされたことのある曲を、トロンボーン3重奏でお送りします。ガーシュウィンの親しみやすい音楽と、トロンボーンという楽器の魅力を感じていただければ幸いです。(谷口)

廣瀬量平／『朝のセレナーデ』より

1stVn.天澤、大八木 2ndVn.越後、水野 Va.小野田、篠崎 Vc.小野田、福山 Cb.名坂、河原

…京都在住の作曲家廣瀬量平氏の弦楽作品です。題名にふさわしい、とてもさわやかな曲です。(天澤)

ハンス・リヒター／『“ワグネリアーナ” ファンタジー』(ハンス・ピツカ編曲)

Hrn. 芦原、片山、坂口、長岡、野田、安田、吉野

…ワーグナー作品の有名なメロディーからなるメドレー形式の曲です。(ホルン軍団)



舞鶴 今津 小浜

本部：舞鶴市字福来1111の2 Tel：0773(77)2710

長野 力哉 (ながの りきや)

東京生まれ。桐朋学園大学音楽部演奏学科卒業。

指揮を小澤征爾、山田一雄、尾高忠明、小泉和裕、秋山和慶の各氏に、ピアノを小森谷泉氏に、対位法を尾高惇忠氏に、オーボエを鈴木清三氏にそれぞれ師事した。

大学在籍中より、87年にかけて九州交響楽団の指揮。九州芸術祭参加。

87年より西ベルリンに留学。ベルリン芸術大学においてカール・ビュンテ教授に師事する一方、小澤征爾氏の推薦を受け、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団のもとで87年から90年の間行われた、全てのリハーサル及びレコーディングに立ち会い、研鑽をつんだ。

帰国後は東京都交響楽団、神奈川フィルハーモニー管弦楽団、仙台フィルハーモニー管弦楽団、新星日本交響楽団、北九州交響楽団、日本オペレッタ協会、日生劇場、日野交響楽団、光が丘交響楽団、栃木県オーケストラ連盟、長野県フィルハーモニー管弦楽団、三友合唱団、福岡教育大学管弦楽団、千葉少年少女オーケストラ、千葉大学管弦楽団、横浜フィルハーモニー管弦楽団等の指揮・指導にあたっている。

正統的な解釈によるドイツ古典派、ロマン派に定評がある一方、近現代音楽や合唱曲、邦人作曲家による新作の演奏も多く手がけている。

<p>花とコーヒー</p>  <p>Open 8:30am-8:00pm Holiday Wednesday Tel./Fax. 075-951-0362 長岡京市天神1丁目1-4 阪急長岡天神駅前</p>	 <p>伊太利亞居酒屋 営業時間/PM5:00-AM0:00 (金・土・祝前/PM5:00-AM2:00) 京都市中京区木屋町三条下ル TEL : 231-2134</p>
 <p>音楽と自然の音と朗読、 そして香りが織りなす ヒーリング世界に皆様をお招きいたします。 企画/お問い合わせ先 プランニングオフィス プロシップ TEL/FAX.075-811-9120 http://www.pro-ship.com/</p>	<p>印刷のことなら</p> <h1>大地社</h1> <p>〒602-0858 京都市上京区河原町通荒神口上ル二筋目東入ル TEL (075) 231-1727(代) FAX (075) 256-4604</p>

このオーケストラに寄せて

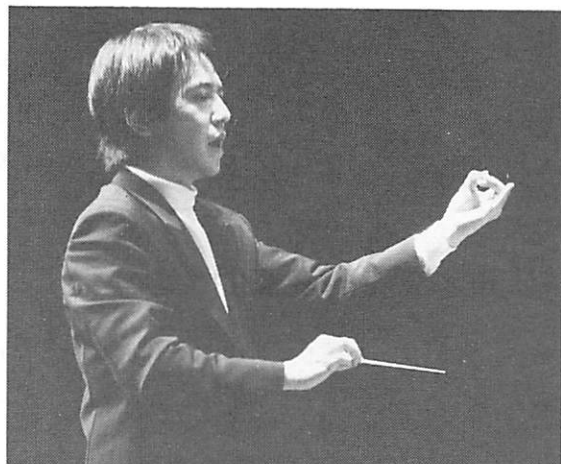
「こんな人達のこんなオーケストラがあったらいいのに…」

京都フィロムジカは僕が永くそう希ってきたオーケストラです。

オーケストラが日本に現われてから既に一世紀以上が経っています。しかし輸入出来たものは形であり、それを生み育んだ社会、歴史を輸入する事は出来ません。それが芸術にとって如何に大切なものなのか、現代日本に生きる私達は痛感しています。音楽の中でも管弦楽はそこに人数を必要とする為に社会との関係性は個人の音楽家との比ではありません。

オーケストラと社会との関わりを最も端的に示す例がプログラムと演奏解釈だと言えるでしょう。世界には無数の曲が存在しその新旧を問わず滅びるもの、新たに注目を集めるもの等様々です。そして現実には日本を一步抜け出すと、それまで全く見聴きもしなかった管弦楽曲や演奏解釈の実演にひっきりなしに出会うのです。社会全体の音楽に対する意識、成熟度がオーケストラに投影されているのです。

「京都フィロムジカ」はまさに新しい意識、視野を持ってそのプログラムを組み立てています。時代が確実に動いている事を感じずにはられません。音楽作品には作曲家すら気が付かない美しさ、或いはある種の演奏によってこそ真価が発揮される曲があります。それは作品そのものが内包する要素でもあるのです。これを探り確かめる為には他所の土地で確かめられた価値ではなく、まず自らの耳や演奏でじかに体験してみなければなりません。それを成し得るのは好奇心を含めた音楽に対する純粋で強い愛情です。今、彼らが抱く憧憬は音となり、そこに触れたすべての人々に新鮮な影響を与えてくれるのです。



長野 力哉

合宿・研修に、ぜひどうぞ!!

びわ湖 千鳥荘

滋賀県滋賀郡志賀町南浜403

Tel (077) 594-0035

Fax (077) 594-0156

サークル合宿・ゼミ旅行・スキーに
海外旅行まで、全てお任せください

面倒な施設の予約から交通機関まで
一切の手続きを代行いたします

お問い合わせは…

日本教育旅行株式会社

フリーダイヤル 0120-040-566



日本教育旅行株式会社
京都府知事登録国内旅行業第2-6号

TEL. 075-351-0405

FAX. 075-371-7739

e-mail sato-20@mail.plala.or.jp

URL <http://www.net-freeway.com>

担当者: 佐藤 貴光

私たち京都フィロムジカ管弦楽団は来年12月の定期演奏会において、イギリスの巨匠エドワード・エルガーの大作「交響曲第1番」に挑みます。そこで私たちは、エルガーを演奏するのに向けてイギリス音楽への理解をより深めるため、イギリスの作曲家の作品を積極的に取り上げることにしました。今回は、エルガーの先輩と後輩にあたる2人の作曲家の傑作に、古典の名作モーツァルトを組み合わせた魅力的なプログラムになりました。どうぞお楽しみください。

パリー／交響的変奏曲

皆さんはパリーと言うイギリス人作曲家をご存知でしょうか。パリーは歌曲の作曲家として本国では特に有名で、代表作「イェルサレム」はエルガーの威風堂々第1番と並んで「イギリス第2の国歌」として愛唱されています。

日本では余り知られていないこの作曲家について、簡単に紹介しておきます。Sir Charles Hubert Hastings Parry は、1848年生まれのイングランド人で、スタンフォード等とならんで「イギリス近代音楽の父」と称されています。事実、自身の長期にわたるドイツ滞在でドイツロマン派音楽を吸収して帰国したパリーは、帰国後イギリス王立音楽院の教鞭をとり、今回の演奏会のメインプログラムのヴォーン・ウィリアムズのほか、バターワースやホルスト等、その後20世紀イギリス音楽を代表する作曲家を多く輩出しました。かのエドワード・エルガーもパリーに大きな影響を受けた作曲家の一人です。そのエルガーの代表作の一つ、「エニグマ変奏曲」の誕生に際してインスピレーションを与えたといわれるのが、この「交響的変奏曲」です。

パリーは大のブラームス崇拝者で、1897年ブラームスがこの世を去った時、「ブラームスの為の哀歌」を作曲しましたが、同年ブラームスの葬儀においてそれは演奏されず、初演は遅れて1910年。1918年パリー自身の葬儀のときに演奏されました。日本初演も作曲後100年以上経った2000年です。「交響的変奏曲」は、「ブラームスの為の哀歌」と同じ年に作曲され、パリーの崇拝したブラームスの作品「ハイドン変奏曲」の影響を強く受けています。1897年7月に行われた英国における初演の後には、エルガーを始め、D・F・トーヴェイ、ヨアヒム等の絶賛を受けたと言われています。

基本テーマと27（細かく分けると29ですが）の変奏で構成されたこの曲は、テンポと調性により、大きく6つに分けることが出来ます。このソナタ形式を形作る構成が、この変奏曲を「交響的」と称する理由と言えます。思わず口ずさんでしまうメインテーマはホ短調で始まりますが、長調に転調した後ト長調のコラールからハ長調、イ短調を経て、ホ長調に変化したところで戻ってきます。その後テンポが上がり、コーダの盛り上がりを受けて華々しく終わります。

今回の演奏に先立ちまして、考えられる限りの手を尽くしましたが、日本国内での演奏記録を見つけることが出来なかった為、まことに勝手ではありますが「日本初演」と謳わせていただきます。

モーツァルト 交響曲第31番「パリ」〔第1版〕

第1楽章：「もっとパリ市民が喜ぶような曲を書いてほしい」と依頼されたことからモーツァルトはこの曲を作った。当時フランスではオーケストラの技術力を演奏会で見せつけることが流行していて、曲の冒頭の音がそろったようすやフォルテとピアノの交代が鮮やかに行われることに聴衆は満足していた。案の定この曲は喝采をあげたが、モーツァルトは自分の意図にまんまとはまったフランス人を皮肉っているようにきこえる。(演奏時間7分)

第2楽章：「この楽章は長すぎるし転調も多いので書き直してくれ」と依頼者から命じられた楽章がこれである。その結果この交響曲にはアンダンテが二種類存在することになってしまった。第二稿の方をモーツァルト自身は気に入っていたらしいが、きょうはオリジナルの方を演奏する。(演奏時間6分)

第3楽章：疾走するような第二ヴァイオリンのうえに第一ヴァイオリンの弱奏が乗っかる。8小節後、突然フォルテにすべりこむ。この始まり方が当時のパリ市民に受け入れられモーツァルトも満足したようだ。自分の嫌いなフランス人に迎合するとみせかけ、一方心の奥では嘲笑する彼の性格が手に取れる。(演奏時間4分)

曲目推薦者 Hrn.長岡武志

ヴォーン・ウィリアムズ／『田園交響曲』(交響曲第3番)

第1楽章：民謡風の旋律による穏やかな音楽。弦や木管のソロを効果的に使ったオーケストレイションが秀逸。実は1小節ごとに拍子が変わる変拍子の音楽なのだが、それを全く感じさせないなめらかな流れを持っている。フランスでラヴェルの指導を受けた作曲者の力量が冴え渡った楽章といえる。

第2楽章：瞑想的な楽想のアダージョ。ナチュラル・トランペットとナチュラル・ホルンのソロが不思議な効果を上げる。これらはヴァルヴの無い古式の楽器であるため調子外れな音程しか出せないが、それがかえって印象的に響く。作曲者はヴァルヴによって正確な音程を出せるようになった金管楽器の音を好まず、限定された音しか出せない古式の金管楽器に愛着を持っていたが、そうした彼の美意識が反映しているのかもしれない。

第3楽章：激しい曲想のダンス音楽で、ときおり不協和音も鳴り響く。

第4楽章：冒頭、独唱ソプラノの歌詞の無い歌が彼方から聞こえてくる。第1楽章と同様に民謡風の穏やかな音楽だが、クライマックスは厳しくそして嘆くような音楽になる。最後は冒頭と同じ独唱ソプラノが彼方から聞こえてきて静かに締めくくられる。

毎回フィロムジカの演奏を聞いて下さっている方は2年前に演奏したバターワース作曲『シュロップシャーの若者』を覚えて下さっていることだろう。バターワースは本日演奏するレイフ・ヴォーン・

曲目解説

ウィリアムズ (1872-1958。名前が長いので“RVW”と省略して呼ぶことが多いので、以下でもRVWと表記する)の友人である。RVWはバターワースにイギリス民謡の魅力を伝え、バターワースはRVWに交響曲の作曲を勧めその為の主題を提供するなど、深い親交を結んだ。

2人の親交の紐帯となっていたイギリス民謡はRVWの作品の大きな特徴である。RVWは、民謡を音楽芸術の源泉と考えていた。民謡は人間の自然な感情の発露から生まれ、多くの人々に長い世代にわたって歌い継がれる間に良いものだけが厳選され残っていく。「音楽の形式」とされるものも実は優れた民謡には既に備わっているのである。古典として尊敬されているモーツァルトやベートーベンの作品、そしてRVWが最も敬愛したバッハの音楽も、彼らの育ったオーストリアやドイツの民謡を源泉としたものである。RVWはそう考えていた。そしてさらに、RVWにとって故郷・イギリスの民謡は、ドイツ・オーストリア音楽の影響から自らを解放し、彼独自の作風へと導いてくれるものでもあった(註1)。『田園交響曲』にもそうした民謡風の音階や旋律が使われている。

前述のバターワースの『シュロップシャーの若者』は戦争に赴く若者の諦念を表現した曲だった。RVWの『田園交響曲』も同様に戦争が作曲の契機になった作品である。2人とも第1次世界大戦でフランスの戦線に向うが生死は明暗を分け、バターワースが戦死した一方、RVWは無事帰還した。バターワースが出征前に死を目前にひかえた諦念を音楽にしたのとは対照的に、RVWは帰還後に戦場での思いを音楽にした。それが『田園交響曲』なのである。

しかしなぜ戦争をテーマにした曲が『田園』交響曲になるのか? 後にRVWが婚約者に宛てた手紙にはこう書かれている。「(この交響曲は)本当は戦時の音楽なのだ。その大部分はエコワーヴルにいた時の体験から生まれている。毎日毎日、夕方になると私たちは救急車に乗って出発し、険しい丘を上ってゆく。するとそこにはコローが描くような素晴らしい日暮れ時の風景が広がっていた。だからこれは多くの人が想像しているような、子羊がじゃれ回っているといった風景ではないのだ。」(註2)。つまりこの曲は、異郷の戦地で死を迎える兵士たちが故郷の田園を夢見ている、と解釈できるのだ。多くのイギリス人は静かな田園に隠遁して死を迎えたいと夢見ている、とはよく言われることだが、この曲にはそうした望みがかなわなかった兵士たちの無念さが投影されているのだろう。さらにこの曲には同時に、平和への祈りも込められているに違いない。コレッリやヘンデルは、救世主の生誕を待ち、救いと平安を希求する宗教的な祈りの音楽として<パストラール(田園)>を書いていた(註3)。こうした観点から見れば、この曲は実に理解しやすくなるのである。

第1楽章は最も『田園』のイメージに合う曲だ。穏やかな風やなだらかな丘陵が、時に優しげに、時に厳しさを持って描かれる。が、ときおり祈るような美しい和音が挿入され、この曲が単なるスケッチではない、祈りの曲であることが明確に示される。

この第1楽章と鏡像のような関係にある第4楽章では、独唱ソプラノが祈りに満ちた歌を唄う。この遠くから聞こえてくる人間の声は、死者を彼世へと送る天使の唄とも取れるし、あるいは、記憶の彼方にある子守唄を死の間際に夢見ているようにも思われる。

この両端楽章に挟まれた中間の2つの楽章は、対照的な曲調を持って異彩を放つ。

第3楽章は激しいリズムを持ったダンス・ミュージックだが、これはRVWが戦場で見た死の情景ととることができよう。この楽章について「つかの間の喜びを思わせるカントリー・ダンス」などという的外れな形容がなされることがあるが、決してそのような甘っちょろい音楽ではない。地獄の底から湧き立つような不気味な低音で始まり、切り刻むような不協和音が炸裂する恐ろしく苛烈な音楽なのだ。看護部隊員として従軍していたRVWは苦痛に悶えて死んでいった多くの兵士を見てきたことだろう。そうした生々しい死の現場がこの楽章に反映しているように思う。そもそもダンスとは、華麗であると同時にどこか死の臭いを感じさせるものだ。音楽作品にも、死神が弾くヴァイオリンに合わせて骸骨が踊る『死の舞踏』（リストとサン・サーンスが同名の曲を作曲）や、死の間際に夢の中で踊る『悲しきワルツ』（シベリウス作曲。ちなみにシベリウスは同時代人の中でRVWが最も評価していた作曲家だ）、生贄の乙女が踊りながら息絶える『春の祭典』（ストラヴィンスキイ作曲）など、死の影を背負ったダンスは多い。また、古今東西のシャーマン（呪術者）はダンスによって仮死状態に至り、神の託宣を聞く。つまり、ダンスとは本来、死の近くにあるものなのだ。

第2楽章の、瞑想するようなこの世離れた響きの彼方から立ち昇るラッパのソロはこの曲の中でも最も印象的な場面の一つだ。自然倍音のみによって奏されるこの旋律は実に様々な連想をかきたててくれる。これはRVWが従軍中に鼓笛手が吹く拙いラッパを聞いて靈感を得たと言われている。この「戦場のラッパ」から連想するイメージは、決して勇ましい進軍などではない。「おお、緑の地に住むきみ、愛しき人よ！ 僕が征くのは、緑なすとも荒野の戦場。これからそこへと征かねばならぬ。緑といっても荒野だが、ここから遠く離れた地！ あちらこちらで美しくラッパの鳴り響くところ。そこに僕の家がある、終（つい）の住家の家がある、終の住家だ、緑の芝に覆われた！（深田甫訳）」これはマーラーが曲をつけたことで有名な『少年の魔の角笛』の一節だが、このような孤独・悲しみ・望郷こそが戦場のラッパがもたらすイメージなのだ。さらにこの旋律は、譜例に示すようにマーラーの第2交響曲『復活』第5楽章の場外ホルンの旋律と酷似している。このマーラーの場外ホルンは、再現部において「生まれたものは滅びる定め、滅びたものはよみがえるのだ！」と歌う合唱団の先導役を演じている。このマーラーとの関連から、『田園交響曲』のラッパのソロに「復活してでも再び生きたい」という死者たちの願いを連想せずにはいられない。僕はこの旋律を、現世に思いを残して死ぬ者の悲しみと、そして、それでもなお生きたいと願った生への執念とを込めて演奏したいと思う。

曲目推薦者 Tp.遠藤啓輔

譜例 RVW『田園交響曲』第2楽章より

マーラー『復活』第5楽章より

molto tranquillo.

Horn in F.

(註1) レイフ・ヴォーン・ウィリアムズ著（塚谷晃弘訳）『民族音楽論』雄山閣、1984 より

(註2) アンソニー・バートン（栗田洋訳）によるA.デイヴィス指揮BBC響のライナーノーツより引用

(註3) 根岸一美による大阪フィル第336回定期演奏会配布パンフレットの曲目解説より

京都フィロムジカ管弦楽団「友の会」会員様ご芳名

村上 治子様	南方 一晃様	野瀬 規子様
川野 浩之様	政岡 潤平様	井ノ山 敏江様
岩佐 聖子様	津田 篤太郎様	井ノ山 恵理様
田中 直子様	越後 千代様	小林 香様
村山 明日香様	西山 恵子様	杉本 幸子様
村山 義尚様	後藤 恭子様	大原 達也様
渡辺 真人様	高瀬 博章様	石川 久男様
渡辺 和美様	渡辺 一真様	石川 佐知子様
杉本 里香様	渡辺 由加里様	ほか 5 名様
大八木 文人様	渡辺 晴菜様	
松村 正人様	河上 由香里様	

(2003年11月10日現在)

2002年4月に発足しました「友の会」は、上記会員の皆様方よりご支援いただいております。

Violin shop

VIOLIN VIOLA CELLO & BOW
販売・製作・修理・調整

渡辺弦楽器工房

京都店 京都市中京区高倉裏川上ル福慶町728-4 TEL.075-211-0116
夙川店 西宮市南郷町14-10 TEL.0798-70-2006

ヴァイオリン・ヴィオラ・チェロ 輸入・販売・修理・調整・製作

イチイヒロキ Violin Shop

～弦楽器をもっと知り、楽しむ人に～

◆イタリア、ドイツ製ヴァイオリンなど直輸入、品質には自信のある楽器や弓を良心的価格で揃えています。まずは手にとって御試奏を。

◆弦は格安価格にて通信販売。ケースその他、特価品有り、当店はただ売るだけでなく良いものをお奨めいたします。

楽器の音色の美しさ、すどさ、しなやかさ。表現の多様性から広がっていく音の世界、イチイヒロキViolin Shop はより深みのある、新鮮な音を目指して、あなたをサポートします。

営業時間のお知らせ

pm.1:30 - pm.7:00

定休日(月・火)

◆〒602-0825 京都市上京区

寺町通今出川上ル裏町31

◆Tel. 075-251-0724

◆携帯電話: 090-3628-0863

◆e-mail: ichii@violinshop.jp



<http://violinshop.jp>

1/24 大人の空間グラレドオープレ

焼き肉の三四郎

YAKINIKU NO SANSHIRO

長岡京市長岡1丁目1-12 (駅前セブレ通り右側すぐ)

TEL 075-954-3460 FAX 075-954-0346

京都フィロムジカ管弦楽団 Kyoto Philomusica Orchestra

Leaders	越後 真理※	Double Basses	Bassoons	Timpani
天澤 天二郎 (Parry, RWV)	桑野 友樹※	河原 豊	塚田 英城	永野 貴子
千熊 由紀子 (Mozart)	齋藤 緩※	名坂 美香	溝辺 澄子※	
	田代 直子※	今城 和久※		Percussion
	羽廣 忠彦※	佐藤 弥生※	Horns	芦原 俊平
	前川 信幸※	中村 直永※	芦原 俊平	安岡 祐子※
			片山 真吾	
Violins	Violas	Flutes	(Natural Horn)	Harp
天澤 天二郎 (solo)	小野田 靖代	江藤 佳美	坂口 裕志	神前 千草※
新井 京	瀬尾 倫代	加藤 勇仁	長岡 武志	
越後 美和	篠崎 淳	松村 朋美	野田 啓	※印：客演奏者
大八木 文人	(solo)	(Piccolo)	安田 聖	—————
荻野 衣美子	下川 雅弘		吉野 文彦	顧問
下川 摩里子	相原 芸術※	Oboes		和田 之宏
須賀 みな子	相原 眞紀子※	中西 充弥	Trumpets	
中島 円	市村 想生※	山出 涼子	遠藤 啓輔	団長
飯島 光一朗	中村 真央※		(Natural Trumpet)	長岡 武志
奥田 美抄		Cor Anglais	竹内 恵理	
水野 紗綾	Violoncellos	岡崎 いつ子※	渡辺 美智子	事務
小幡 拓也	小川 優香			木下 洋輔
川島 仁子	奥田 真里恵	Clarinets	Trombones	西村 浩
千熊 由紀子	小野田 税	田中 慎一郎	谷口 佳隆	松浦 淳司
西村 祐司	(solo)	酒井 朋美※	山下 大介	
石松 満美子※	酒井 美代子	(Bass Clarinet)	竹下 沙織※	
磯貝 碧里※	西村 浩輔	森 健太郎※		
磯田 聡子※	福山 啓三		Tuba	
	星 衛※		塚田 淳一	

ソプラノ独唱 好本 由希子

京都市立芸術大学音楽学部、同大学院音楽研究科声楽専攻修了。卒業演奏会に出演。米ロチェスター大学イーストマン音楽学校セミナーに合格、選抜演奏会に出演。現在門真ルミエール混声合唱団、奈良フロイデ合唱団ボイストレーナー。

弦トレーナー 吉野 美穂

京都市立芸大卒。ヴァイオリンを木村直子、岸辺百百雄、室内楽を種田直之、河野文昭、久合田緑の各氏に師事。

管トレーナー 山崎 雅夫

京都大学卒。京都大学交響楽団金管・打楽器トレーナー。トランペットをC、マクベス、A、ハーゼス、M. アンドレの各氏に師事。

京都フィロムジカ管弦楽団からのお知らせ

♪ 第15回定期演奏会 ♪

2004年6月6日(日) 午後2時開演 京都府長岡京記念文化会館 指揮:三原 明人
ハーティ/『雁の群れとともに』 ヒンデミット/『至高の幻想』 伊福部 昭/タプカーラ交響曲

♪ 第16回定期演奏会 ♪

2004年12月19日(日) 京都コンサートホール(大ホール)
エルガー/交響曲第1番 ほか

♪ 新入団員随時募集中 ♪

募集パート: ヴァイオリン・ヴィオラ・チェロ・コントラバス
オーボエ、クラリネット、ファゴット、トランペット、テナートロンボーン、打楽器
※管・打楽器はオーディションがあります。
※コントラバスは団所有の楽器があるため、楽器に関しては相談に応じます。
詳しくはお問合せください
Tel. 090-8163-4626 (竹内) E-mail philo_recruit@artdam.uji.kyoto.jp

♪ 「友の会」会員随時募集中 ♪

フィロムジカの活動を応援して下さる方を募集しています。
【年会費】1口 1,000円 【期間】ご入会いただいた月より1年間
【特典】1. 期間内の定期演奏会に、1口につき1名様を無料ご招待
2. その他演奏活動のご案内
3. 定期演奏会プログラムへのご芳名の掲載
お申込み・入会に関するお問合せは、下記までお願いいたします。
Tel&Fax 075-495-1831 (松村) E-mail philo_tomo@artdam.uji.kyoto.jp

京都フィロムジカ管弦楽団ホームページ <http://www.artdam.uji.kyoto.jp/philos/>

クラシック音楽の海外公演・国際交流

海外での公演・国際交流は、現地でのマネジメントが大切です。
弊社は日本のオーケストラの海外公演・国際交流を、真の意味で成功させて参りました。
海外公演・国際交流のお手伝いはおまかせください。

最近の海外公演実績・予定

岡山県桃太郎少年合唱団ドイツ公演98年8月(レーゲンスブルク大聖堂他)
京都市民管弦楽団ヨーロッパ公演99年5月(ウィーン・ムジークフェライン大ホール他)
彦根市ベルリン第九演奏会実行委員会99年12月31日(ベルリン・SFB放送大ホール)
ルーマニア トゥルグ・ムレシュ パッハ生誕200年記念コンサート2000年5月(文化宮殿)
同志社大学交響楽団ヨーロッパ公演2001年3月(グラーツ・ステファニーザール 他)
同志社大学交響楽団ヨーロッパ公演2004年3月(ブラハ・ドヴォルザークホール)

ホームページ: <http://www.mitsuma.com/>

協力会社: ルフトハンザドイツ航空会社、全日空、JTB、近畿日本ツーリスト、AIU保険会社



(社) 日本クラシック音楽事業協会会員
(株) ミツマ・ミュージックプロダクツ

〒605-0009 京都市東山区三条通大橋東入ル大橋町102 田中ビル5F Tel.075-761-1213 Fax.075-752-5568